

みなさん、こんにちは。

本日のエッセイは「挑戦しないことには何も始まらない」です。

2月の中旬になりますが、出張でシンガポールに滞在していました。

滞在して1番驚いたのはスピードの速さでした。

特に新たなものを取り入れる速さと、もし、それが駄目だった時の止める潔さ。

まず、空港へ到着すると入国審査はあまり人がおらず、基本は自動で入国審査を行います。

出国の際も使用するターミナルによっては、全てが機械化されているところもあるそうです。

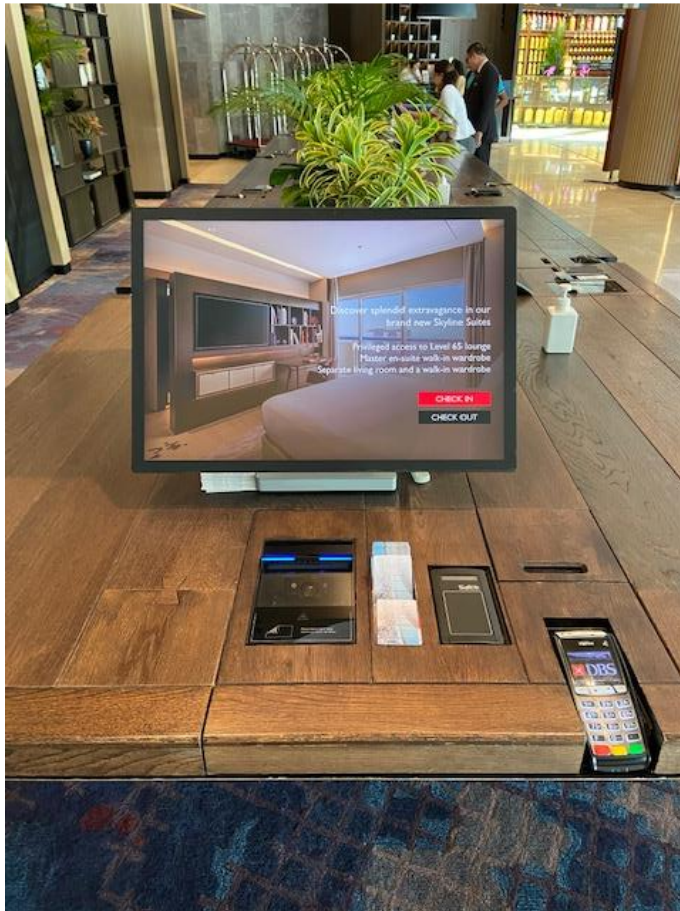
駐車禁止を取り締まる警察はロボットです。指定の場所（駐車禁止区域）に配備され、そこに  
ある一定時間、車が停車すると写真を撮影し、駐車違反の罰金というシステムです。

↓



ホテルのチェックインもサポートの人は1人だけおりますが、チェックインも機械です。このパソコンのような機械にパスポートを読ませると、予約内容が表示されます。後はクレジットカードを入れるだけです。

↓



日本では、規制や業界の反対でなかなか参入が進まない Grab も大量に走っています。タイでは Food Delivery を多く見かけますね。

タクシーと Grab が両方おり、顧客は自由に選択できます。自由に選択が出来るという事はタクシー業界に工夫や競争が起こります。

また先日まで、電動キックボードを使う人が多く、キックボードスタンドも多かったそうですが事故が多発したので、禁止にされ瞬時になくなってしまったそうです。

シンガポールでは、他の国では規制や業界の力関係などで、なかなか進まない事や出来ないことを「まずはやってみよう！」とする風潮があるようです。

印象としては、まるで国全体で大きな実験をしていると感じました。

こういった新たな取り組みの結果がどうなるかは、誰も想像が出来ませんし、何事も始めてみないとわかりません。

予想と違う事も当然ながら発生します。

国として新たなことを経験することで、経験値を蓄積していると思います。

これは私たち個人も同じで、実際に挑戦しないことには、何も始まらないし、学ぶこともなければ、学ぶ機会もないと感じました。

ただ…何となくやっているのではなく、そこには明確なビジョンと計画があるから出来ると思いました。

会社経営しかり、個人の人生しかり、同じではないでしょうか。

何かのご参考になれば幸いです。